

新張地区の防災の拠点として コミュニティセンター完成

松崎町の新張地区コミュニティ消防センターは3月22日、旧消防庁舎跡地に完成し、現地で落成式が行われました。同センターの整備に伴い新設された市消防団第5分団第6部(小山利昌部長、団員14人)の団員や地域住民、工事関係者ら100人が出席。神事の後、本田市長と立花一区长らが看板を設置し、地域の防災と地域づくりの拠点の完成を祝いました。

同センターは市消防本部の移転に伴い、昨年10月に着工。新張8区自治会館との合併型で、木造平屋建て、延べ床面積は190・46平方メートル、総工事費は5千8百万円。40畳の地域コミュニティ室と13畳の団員待機室のほか、調理室や車庫を備え、消防ポンプ自動車1台が配備されています。立花区長は「同センターを

積極的に活用して住民の絆を深め、新張を安心・安全な地域にしていきたい」と決意しました。



供用開始した同センター

乗用馬市場の40周年を記念し 遠野市馬事文化賞を創設

遠野の馬事文化の継承と発展に尽力した人馬を表彰する「市馬事文化賞」の第1回表彰式と市乗用馬市場40周年記念式典(市乗用馬生産組合など主催)は3月20日、サンパークやなぎで開催されました。生産者や乗馬関係者ら90人は、40年の歩みを振り返り、さらなる発展を誓いました。第1回馬事文化賞に輝いた

のは、同組合の創設に貢献した藤村哲也さん(80)と東穀町119人と、馬1頭(P18参照)。このほか、生産者や種雄馬の寄贈者など市場の発展に尽力した13人に感謝状が贈られました。菊池榮喜組合長は「今後は若手の人材育成にも努め、遠野の大切な馬事文化を後世に伝えていきたい」と抱負を語りました。



馬事文化賞を受賞した皆さん

3年間の思い出胸に飛躍誓う 中学再編後初となる卒業式

中学校再編後初となる卒業式は3月12日、市内3中学校でそれぞれ行われ、出席した生徒や保護者、地域住民らは、これまでの歩みを振り返り、新たな門出を祝いました。昨年4月に開校した遠野、遠野東、遠野西の第1回卒業生は246人。式では、校長先生が卒業生一人一人に卒業証書を手渡し、本田市長や在校生らからはなむけの言葉を贈りました。卒業生の代表が感謝の言葉を述べ、最後は卒業生全員で合唱を披露。心のもった美しい歌声が響き渡ると、会場からは大きな拍手が送られました。



上/一人一人に卒業証書が手渡されました(遠野西) 右/凛々しい表情の卒業生(遠野東) 下/はなむけの言葉を胸に飛躍を誓いました(遠野)



夢ある農業経営を目指し 新たに23組が協定締結

農業の事業方針のほか、育児、休日、家族旅行などについて取り決め、経営計画を明らかにする「家族経営協定」。平成25年度は、新たに23家族が締結し、市内の協定締結数は232組となりました。協定を締結すると家族全員が農業経営に意欲をもって取り組める。農業者年金の掛け金の補助を受けられる。経営資金を有利に借り入れることができる。などのメリットがあります。詳しくは、市農業委員会事務局(☎62-2111内線108)までお問い合わせください。

救助資機材搭載型車両 などを8分団6部に配置

市は、上郷町の板沢コミュニティ消防センター(市消防団第8分団第6部)に、油圧救助器具などを搭載した車両・大型テント・救助用AED・資機材倉庫など14点を配置しました。配置した資機材は消防庁から贈呈されたもので、緊急時の人命救助活動などに役立てられます。



救助資機材搭載型車両 油圧救助器具 大型テント

防災に関するフォーラム開催 災害に強いまちづくり探る

「地域の防災・減災を考える集い」(市主催)は3月16日、あえりあ遠野交流ホールで開催されました。参加した自主防災組織の関係者や消防団員、市民ら320人は、今後の地域防災のあり方について理解を深めました。

遠野を拠点に後方支援活動を展開した静岡県の小川英雄(ひでお)危機管理監や、大槌町の碓川(うすがわ)豊町長らも出席。これまでの3年を振り返り、一日も早い復興に向け今後も協力・連携することを誓い合いました。フォーラムでは、NHKの山崎登解(のりあ)主幹が「災害から命を守るために」と題し講演。山崎さんは、東日本大震災では、普段から備えていたものが、普段から備えていたものこそ役に立った事例を挙げ、「それぞれの立場でしっかりと



講演する山崎さん

と防災対策に取り組み、地域の絆を深めることが防災・減災につながる」と呼び掛けました。また、県建設業協会の三浦貞一(さぬけ)遠野支部長と県栄養士の会(けんじょう)の佐々木京子(ささき)さんが、被災地などでの活動を報告。県内で初めて制定された市防災基本条例(次ページ参照)や全戸配布する防災マップ(P31参照)についても説明され、参加者は市民が一丸となって防災活動に取り組む重要性について理解を深めました。

本田市長は「市民の皆さまと一緒に災害に強いまちづくりを進め、今後も被災地の復興を応援していきたい」と決意を新たにしました。

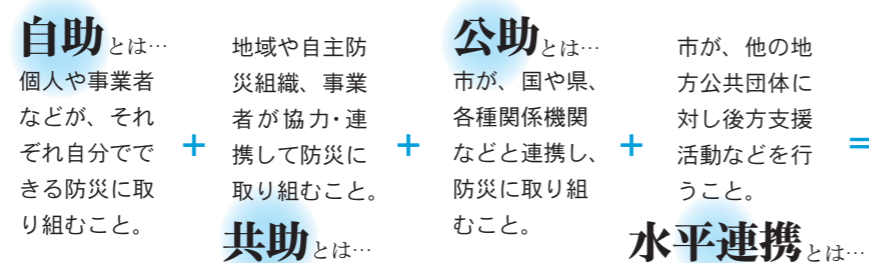


決意を述べる本田市長

官民一体で防災体制を構築する 防災基本条例を制定しました

市と市民などが適切な役割を担いながら、災害に強い地域社会の構築を目指す「遠野市防災基本条例」は、県内の自治体で初めて制定されました。同条例は、「自助」「共助」「公助」「水平連携」をキーワードに、市や市民のほか、事業者、自主防災組織などの役割分担を明確にし、それぞれが連携して防災対策に取り組むことを約束するものです。市は同条例を基に、より一層災害に強いまちづくりを進めていきます。市民の皆さまのご理解とご協力をお願いします。

災害に強いまち



民生相談委員を 紹介します

宮守3区
太田代 元康 さん
上郷地区
菊池 富貴子 さん
※任期は平成28年11月30日まで

お詫び

広報遠野3月号7項のインタビュー欄に誤りがありました。下記のとおり訂正し、お詫びします。
【誤】強力 → 【正】協力